

日本たばこ産業株式会社

Corporate
Brochure

会社案内 2023



心の豊かさを、もっと。

私たちJTグループは、これまでずっと、
心豊かに生きるための「とき」と向き合ってきました。

科学やテクノロジーの進化、価値観の多様化。
どんなに時代が変わっても、私たちは、
今ここにある何気ない瞬間にも喜びを見つけられる、
心の豊かさを大切にしたいと思っています。

ありのままの自分を認められる「とき」
大切なひとと喜びを共有する「とき」
それぞれを認め合って、高め合って過ごす「とき」
そんな素晴らしい「とき」の積み重ねが、
素晴らしい毎日をつくり、素晴らしい人生をつくる。
そしてきっと、社会、世界、未来までをも、よりよくしていく。

JTグループは、提供してきた心の豊かさを、次のステージへ。
より多くのお客様やパートナーと、さまざまな事業や取り組みを通じて、
社会に心の豊かさを育んでいきます。

「今日もよい一日だった」と感じられる心豊かな社会のために、
私たちができることのすべてを。





目次 / INDEX

JTグループパーパス	JT Group Purpose	1 ~ 2
トップメッセージ	Message from CEO	5 ~ 6
JTグループの軌跡	Our History	7 ~ 8
事業関連データ	Financial Information	9 ~ 10
たばこ事業	Tobacco Business	11 ~ 14
医薬事業	Pharmaceutical Business	15 ~ 16
加工食品事業	Processed Food Business	17 ~ 18
サステナビリティ	Sustainability	19 ~ 22
スポーツ・文化支援	Sports & Culture	23 ~ 24
人財マネジメント	Human Resources Management	25 ~ 26
コンプライアンス	Compliance	27 ~ 28
会社概要	Corporate Data	29
JTグループ組織図	JT Group Organization Chart	30

トップメッセージ

Message from CEO

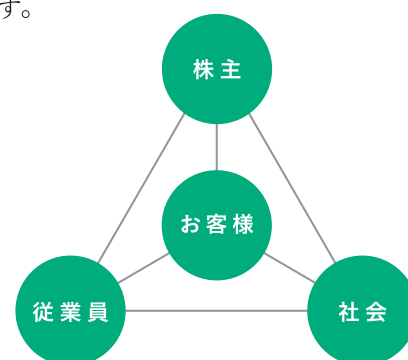


当社を取り巻く事業環境は、今後も厳しさを増すとともに、かつてない規模とスピードで変化が進行するものと捉えております。

JTグループは、これまでグローバル化や事業構造改革などをはじめ、自らの主体的意思により自己変革を行ってきました。これからも、事業環境の変化に対して、これまで以上にスピード感をもって臨み、乗り越えていくため、組織能力の一層の進化に取り組んでまいります。

そのために必要なことは、お客様視点を起点とした行動変革にあると考えています。そのためにも、JTグループの経営理念である4Sモデルをさらなる高みに

発展させていくことが重要と認識しています。4Sモデルとは、「お客様を中心として、株主、従業員、社会の4者に対する責任を高い次元でバランスよく果たし、4者の満足度を高めていく」ことを掲げたJTグループの経営理念です。



また、自然・社会・個人のさまざまなスケールで非連続な変化が起こり、事業環境の不確実性・複雑性がますます高まっている状況において、JTグループが持続的な存在であり続けるための方向性を明確にするものとして、JT Group Purpose (JTグループパーパス) を策定いたしました。具体的には、JTグループが未来において社会から求められ、かつ、長期にわたり価値を發揮し続けていくべき領域を「心の豊かさ」と同定し、この領域を任せられ、貢献し続けていきたいとの考えから「心の豊かさをもっと。」をJT Group Purposeとしています。

時代や人により、多様で、変化していく「心の豊かさ」の領域を、今後も社会から任せられ、貢献できる存在であり続けるため、JTグループは絶えず進化してまいります。

代表取締役社長 寺田正道

JTグループの軌跡

Our History

1985年 ▶ 1999年 ▶ 2007年 ▶ 2008年 ▶ 2013年 ▶ 2015年 ▶ 2016年 ▶ 2020年 ▶ 2021年 ▶ 2022年 ▶

日本たばこ産業(株)設立

RJRナビスコ社の米国外たばこ事業を買収

ギャラハー社を買収

(株)加ト吉および富士食品工業(株)を買収

「マイルドセブン」から「メビウス」へ名称変更

「キャビン」「キャスター」を「ウィンストン」に統合

「ナチュラルアメリカンスピリット」の米国外たばこ事業を取得

「コレクチム®軟膏0.5%」「エナロイ®錠2mg、4mg」の製造販売承認を取得

「プルーム・エックス」発売

たばこ事業運営体制を一本化

専売制の廃止により、日本たばこ産業(株)を設立。1988年 コミュニケーションネーム「JT」を導入。1990年までの間に医薬・食品などの事業部も設置し、今に続く事業基盤を構築。



当時世界最大規模のM&A。世界的な2大ブランド「ウィンストン」「キャメル」を仲間に迎え、世界第3位のたばこメーカーへと躍進。



鳥居薬品(株)との機能統合

1998年 鳥居薬品(株)の発行済株式の過半数を取得。1999年 研究開発機能をJTに集中、プロモーション機能を鳥居薬品(株)に統合することで、国内の事業基盤を強化。



ヨーロッパで広くたばこ事業を行っていた、ギャラハー社の全株式を取得。世界規模のブランド「LD」「ベンソン・アンド・ヘッジス」「グラマー」「ソブラニー」「シルクカット」を加え、世界第3位のグローバルたばこメーカーとしての地位を強化。



1999年 旭化成工業(株)の食品事業を取得。2008年 (株)加ト吉および富士食品工業(株)の発行済株式の過半数を取得し、冷食・常温事業、調味料事業を展開。2010年 (株)加ト吉の社名を「テーブルマーク(株)」へ変更。



グローバルNo.1プレミアムブランドへのさらなる躍進に向け、「マイルドセブン」の名称を「メビウス」に変更。強固なブランド力を活かして、世界での販売網を拡大。



JT初のオリジナル新薬を含む抗HIV薬の国内承認を取得

JT初のオリジナル新薬(エルビテグラビル)を含む、抗HIV薬「スタリビルド配合錠」について、国内における製造販売承認を取得(2019年12月にスタリビルド配合錠を含む抗HIV薬6品の国内製造販売承認をパートナー企業に承継)。

国内ロングセラーブランドの「キャビン」「キャスター」を、グローバル・フラッグシップ・ブランドの「ウィンストン」に統合。幅広い味わいのラインアップを持つブランドへと生まれ変わり、世界の多様なお客様の嗜好に応え地理的拡大・成長を推進。



米国レイノルズ・アメリカングループより、「ナチュラルアメリカン スピリット」の米国外たばこ事業を取得。日本市場で大きな成長を遂げているブランドをJTグループに加え、多様なお客様ニーズに対応。



アトピー性皮膚炎治療薬「コレクチム®軟膏0.5%」、腎性貧血治療薬「エナロイ®錠2mg、4mg」について、日本国内における製造販売承認を取得。

本社移転

より一層のスピーディかつ質の高い事業運営体制の構築およびイノベーション創出・生産性向上を目的とし、虎ノ門JTビル(現 住友不動産虎ノ門タワー)から神谷町トラストタワーへ本社を移転。社内外の交流・協業を促進させる柔軟なワークプレイスを整備。

JTグループの総力を結集し開発した次世代のグローバル共通モデル「プルーム・エックス」を世界に先駆けて日本市場で発売を開始。



たばこ事業において、事業環境の変化への対応を強化し、持続的成長を目指していく観点から、競争力・収益力強化に向け、海外たばこ事業と国内たばこ事業の2事業体制を、2022年1月より一本化。

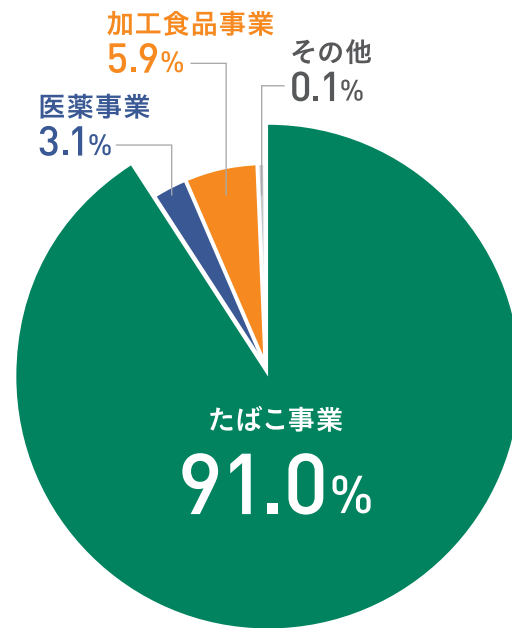
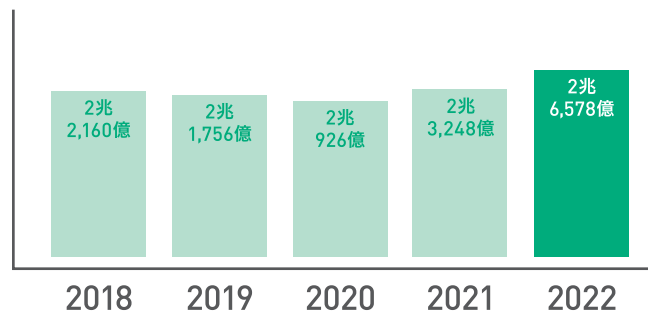
事業関連データ

Financial Information

売上収益

(2022年1月-12月)

合計 **2兆6,578** 億円



たばこ事業トピックス

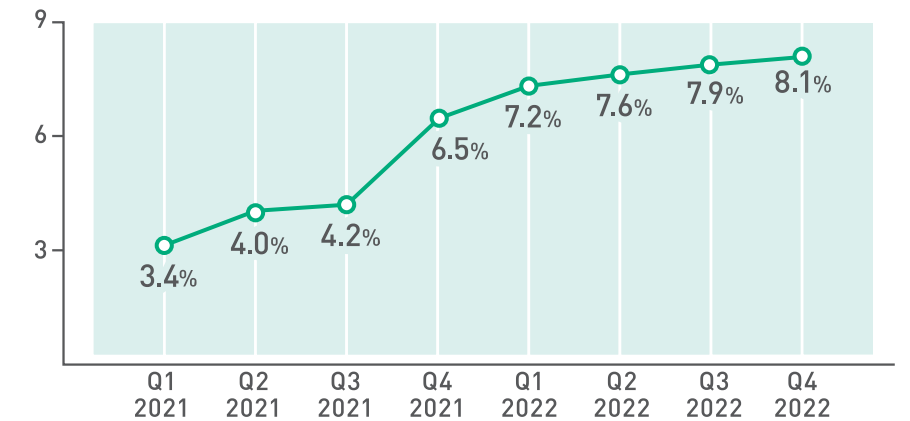
(2022年1月-12月)



RRP販売数量^{※5}

79 億本

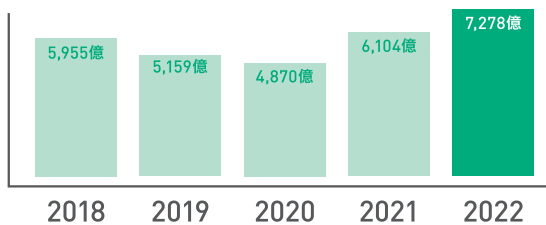
日本市場: HTS^{※6}カテゴリにおけるJTシェア^{※7}の推移



調整後営業利益^{※1}

(2022年1月-12月)

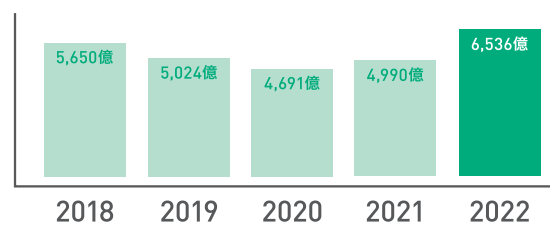
合計 **7,278** 億円



営業利益

(2022年1月-12月)

合計 **6,536** 億円



※1 調整後営業利益=営業利益+買収に伴い生じた無形資産に係る償却費+調整項目(収益および費用)*
*調整項目(収益および費用)=のれんの減損損失±ストラクチャリング収益および費用など

※2 総販売数量:水たばこ/製造受託/RRPデバイスおよび関連アクセサリーを除くたばこ製品の販売数量
 ※3 Combustibles販売数量:水たばこ/E-Vapor/無煙たばこ(Snus・ニコチンパウチ)/加熱式たばこ/製造受託を除くたばこ製品の販売数量
 ※4 GFB販売数量:GFB(Global Flagship Brand)に含まれる「ウィンストン」「キャメル」「メビウス」「LD」のCombustiblesおよびSnus製品の販売数量
 ※5 RRP*販売数量:Reduced-Risk Products(RRP)の販売本数(紙巻たばことして換算)。デバイス/関連アクセサリーなどは含まない
 *喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
 ※6 HTS(Heated tobacco sticks):高温加熱型の加熱式たばこ
 ※7 JT推計(出荷ベース)

たばこ事業

Tobacco Business

グローバルたばこカンパニーとして
世界中で事業を展開しています

JTグループは130以上の国と地域でたばこ製品を販売しています。不確実性の高い事業環境下においても、ブランドを最大の財産として、将来の成長に向けた積極的な事業投資を実行しつつ、着実な利益成長を実現しています。また、近年では、リスク低減製品^{※1} (RRP^{※2}) をはじめとするイノベーションにも注力しています。

※1 リスク低減製品:喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
※2 RRP:Reduced-Risk Products



リスク低減製品 (RRP)/Combustibles^{※3}双方に注力し、着実な利益成長を実現

JTグループは、各市場でのオーガニック成長と、それを補完するM&Aなどを通じた地理的拡大によって、グローバルたばこカンパニーとしての確固たる地位を築き上げてきました。たばこ事業は利益成長の中核かつ牽引役として、中長期にわたる持続的な利益成長に向けた事業基盤の強化に取り組んでいます。



※3 Combustibles:製造受託/水たばこ/加熱式たばこ/無煙たばこ/
E-Vaporを除く燃焼性のたばこ製品

競争力のあるブランドを武器に、世界中でプレゼンスを向上

JTグループは、世界各地における多様なお客様ニーズにお応えする幅広いブランドを保有しています。なかでも、グローバル・フラッグシップ・ブランド (GFB) の「ウィンストン」「キャメル」「メビウス」「LD」は、世界でも有数のたばこブランドであり、JTグループのブランドポートフォリオの中核を形成しています。



一歩先の美味しさと心地よさのために、
加熱式たばこがもたらす愉しみの
未来をつくります



一歩ずつこちよい世の中へ
さまざまな取り組みを
行っています



多様なニーズに合わせた選択肢を提供

JTは加熱式たばこカテゴリーにおいて、「プルーム・エックス」と「ウィズ」を展開しています。多様なニーズに合わせた選択肢を提供することで、お客様満足の上昇と、JTが目指す共存社会の実現に貢献できると考えています。

共存に向けた取り組み

たばこを吸われる方とたばこを吸われない方が共存できる社会の実現のため、マナー向上の呼びかけや分煙環境の整備など、さまざまな活動を行っています。また、周囲への配慮という観点において、私たちは、たばこ葉を燃焼させない新しいスタイルのたばこ製品に取り組むことで、副流煙の出ない製品、周囲の方々が迷惑だと感じる独特なにおいが出ない製品、空気環境に影響を与えない製品を開発し、お客様に提供していきます。

「プルーム・エックス」

「プルーム・エックス」は、たばこの愉しさを追求した次世代の加熱式たばこ用デバイスです。手にするだけで気分を高揚させる、使い心地と美しさを融合したデザイン。確かな吸い応えとたばこ葉の豊かな味わいをお届けする、JT独自の加熱技術“HEATFLOW®”。それらの特徴に、個性豊かなたばこスティックラインアップが合わさり、あなたという個性と直感的に共鳴する体験をお届けします。

「ウィズ」

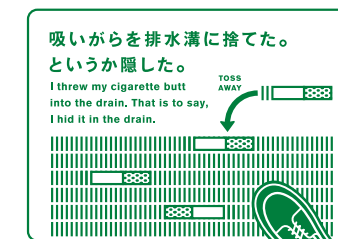
「ウィズ」ブランドは、価値観やライフスタイルがますます多様化する時代だからこそ、“周囲との心地よい関係と自分だけの時間やリズム、そのどちらも大切にしながら自然体でいること”を提案します。「ウィズ2」は、インフューズドテクノロジー※1により「加熱待ち時間ゼロ」、「たばこにおいをほぼ感じない」、「雑味のないフレーバー」を実現し、周囲に配慮しながら喫煙を愉しむことを提供します。

※1 コーヒーやお酒で使用されている、香りを染み込ませる技術をヒントに、霧化したリキッドがたばこ顆粒の入ったカプセルを通してたばこペーパーを発生させる技術



マナー向上に向け さまざまな啓発活動を展開

たばこを吸われる方がマナーの大切さに、“気づき”“考え”“行動”していただけるように、身近なシーンやテーマを紹介するマナー広告を展開しています。また『「ひろろ」体験を通じて『すてない』気持ちを育てたい』という願いのもと、全国各地で「ひろえば街が好きになる運動」という市民参加型の清掃活動も行っています。



マナー広告



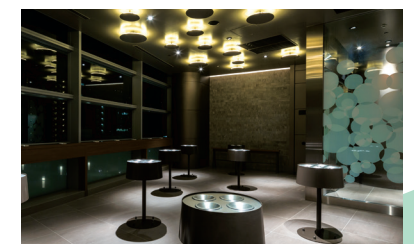
ひろえば街が好きになる運動

皆様が快適に過ごせる 分煙環境の整備

分煙に関するさまざまなご相談にお応えする分煙コンサルティング活動をはじめ、これまで培ったノウハウを生かし、たばこを吸われる方と吸われない方、双方に配慮した分煙環境の整備に取り組んでいます。JTはこれからもたばこを吸われる方と吸われない方が、ともに快適に過ごせる社会を目指した環境づくりに取り組んでいます。



錦糸町駅北口



虎ノ門ヒルズ

医薬事業

Pharmaceutical Business

病気から世界の人々を救う
「オリジナル新薬の創出」に挑み続けます

JTは1987年より医薬事業に進出しました。自社にとどまらず、ライセンスパートナーをはじめとする国内外のネットワークやグループ会社との連携を活用した研究開発を推進するとともに、スムーズな製造・販売体制を構築しています。画期的なオリジナル新薬を創出し、一日も早く患者様にお届けすることを目指しています。



画期的な新薬創出のための研究開発

研究開発力の強化を目的として、1993年に「医薬総合研究所」を設立。この研究施設を中心に、主に「循環器・腎臓・代謝」「免疫・炎症」「中枢」の領域で研究開発を行っています。2000年には海外での開発機能を強化すべく、米国の子会社アクロス・ファーマ社に臨床開発機能を付加。また研究開発スピードを加速させるため、自社の化合物の導出（ライセンスアウト）や、導入（ライセンスイン）する機会を積極的に追求することにも取り組んでいます。



横浜リサーチセンター(神奈川県横浜市)

鳥居薬品(株)との協業

1998年、JTは鳥居薬品(株)をグループ会社に迎え、医薬事業の国内基盤の強化を図ってきました。グループ内での相乗効果を最大限に発揮すべく、研究開発はJTが担い、日本における販売についてはグループ会社である鳥居薬品(株)が担っています。

※製造については、医薬品製造の全工程を外部に委託しています。海外では他の製薬企業への導出を行っているため、販売機能は有していません。

鳥居薬品(株)では、医薬情報担当者(MR)が、医療関係者に医薬品情報を提供し適正な使用を推進することで、すべての人々がより良い健康状態を実感できる社会を目指し、活動を続けています。



アトピー性皮膚炎治療薬「コレクチム®軟膏0.5%、0.25%」
(軟膏0.5%:2020年6月発売、軟膏0.25%:2021年6月発売)

加工食品事業

Processed Food Business

「食」を通じて、“心豊かなひととき”を
生み出しつづけます

加工食品事業では、お客様の日々の暮らしを見つめながら、食に関するさまざまな課題と向き合い、お客様の食事をよりうれしく、食卓をよりたのしくできるような存在を目指してまいります。



「食」を通じて、食事・食卓の価値を創造

加工食品事業では、冷食・常温事業、調味料事業を展開しています。

冷食・常温事業はテーブルマーク(株)を中心として、冷凍うどん、冷凍お好み焼、バックごはんなど画期的な製法にてつくられた製品をお客様にお届けすることで、多様化するお客様のニーズに応え続けています。

調味料事業は富士食品工業(株)を中心として、手軽に本格的な調理香を付与できる調味料や酵母エキスなど、独自技術を活用した製品を外食産業、加工食品メーカーにお届けするとともに、米国、アジア各国の海外4カ所にも拠点をもち、多岐にわたる分野で事業展開しています。



安全・安心で高品質な製品の提供

フードセーフティ

国内外自社グループ工場ではFSSC 22000を取得[※]し、工場からお客様へ安全な製品をお届けしています。

※ 2020年に稼働を開始した1工場は
認証取得準備中



フードディフェンス

製造工程や製品に対する意図的な攻撃を防ぐため、独自のガイドラインを設定し、セキュリティ面を強化しています。

フードクオリティ

おいしさを追求した製品をお届けするとともに、お客様満足度、品質管理機能の実効性の向上に日々取り組んでいます。

フードコミュニケーション

お客様からのご質問にお答えするだけでなく、製品を製造した工場や主な原料の産地も開示し、お客様とのコミュニケーションを推進しています。



サステナビリティ

Sustainability

社会とともに持続的に成長していくために
さまざまな取り組みを行っています

JTグループが持続的に成長していくためには、事業を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことが必要不可欠です。社会の一員としての責任を果たすべく、日々さまざまなサステナビリティに関する課題に取り組んでいます。ステークホルダーの皆様とともに、今後も持続的な成長に向けて着実に歩みを進めていきます。



JTグループのサステナビリティへの取り組み

JTグループではサステナビリティを経営の中核と考えており、サステナビリティに関する課題をグローバルレベルで解決するために、グループ全体でサステナビリティへの取り組みを進めています。

ESG(環境・社会・ガバナンス)の課題に積極的に対応していくことが事業継続に不可欠との考えのもと、JTグループとして、持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、マテリアリティ(重要課題)を特定して取り組んでいます。(詳しくは、当社ホームページ※をご覧ください)

JTグループは、国連で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)を支援しており、事業活動を通じて、関連する目標の実現に貢献していきます。

※ <https://www.jti.co.jp/>

JTグループが事業活動を通じて優先的に貢献するSDGs



JTグループの サステナビリティへの 取り組み



社会的責任の発揮

JTグループは、包摂的かつ持続可能な地域社会の発展のために、「格差是正」「災害分野」「環境保全」を重点課題とし、国内外の幅広いステークホルダーとともに、社会課題の解決に向けた活動に取り組んでいます。

国内外の団体と協力し 被災地支援や防災活動を実施

各国政府やNGOと協力し、世界中の被災地への支援を通じて、自然災害や人的災害など、さまざまな原因で苦しむ人々が安心して生活を送るための長期的なサポートの提供に努めています。



人命捜索救助隊の育成支援 写真提供:Peace Winds Japan

全国で森林保全活動を展開

地域社会への貢献の一環として、従業員自らも参画し元気な森を育てる活動を行っています。社有林や、手入れが不足している森を一定期間借り受けて、森づくりを支援する「JTの森」を全国9ヶ所で展開しています。



JTの森 重富での環境保全活動

人権の尊重

私たちが事業を運営する上で関わるすべてのステークホルダーの人権を尊重するため、「JTグループ人権方針」のもと、さまざまな取り組みを行っています。

児童労働撲滅への取り組み： ARISE[®]プログラム

2011年からARISEを通して、葉たばこ耕作コミュニティにおける児童労働の撲滅に取り組んでいます。ブラジル、マラウイ、ザンビア、タンザニアに加え、2022年には、エチオピアとバングラデシュにも展開を拡大しました。2022年までに、65,317人の子どもたちが学校に通えるようになりました。

※ ARISE: Achieving Reduction of Child Labor in Support of Education



プログラムを通じて学校に通う子ども(マラウイ)

環境負荷の軽減

持続的な社会の実現を目指し、「JTグループ環境計画2030」を策定しています。「エネルギー・温室効果ガス」「自然資源」「廃棄物」を重点領域とし、事業およびステークホルダーに最も重大な影響を与え得る環境課題に対し、明確な目指す姿・目標を定め、取り組んでいます。「エネルギー・温室効果ガス」目標に関して、JTグループは2030年までに事業におけるカーボンニュートラルを達成し、2050年までにバリューチェーン全体でのネットゼロを実現していきます。

エネルギー使用量と 温室効果ガス排出量削減への取り組み

ヨルダンのアンマン工場は、太陽熱により発生させた蒸気を熱エネルギーとして利用する世界で初めてのたばこ工場であり、本プロジェクトはヨルダン環境省と世界銀行から「環境スチュワードシップ賞」を授与されました。



ヨルダンのアンマン工場の屋上に取り付けられた太陽熱集熱設備

廃棄物による環境負荷の さらなる低減への取り組み

JTグループ全社での廃棄物管理の根幹は、「Reduce (排出抑制)、Reuse (再使用)、Recycle (リサイクル)」の考え方です。廃棄物の削減は資源の有効活用、環境負荷の低減、コストの削減につながると考えています。



横浜リサーチセンター(医薬事業)の分別ごみ箱エリア

スポーツ・文化支援

Sports & Culture

さまざまなスポーツ・文化支援を通じて
感動をお届けしています

男女バレーボールチームの、勝利へのひたむきな姿勢や迫力あるプレーをはじめ、「将棋日本シリーズ JTプロ公式戦/テーブルマークこども大会」「ゴルフ日本シリーズJTカップ」など、さまざまなイベントを通じて、JTは全国各地の皆様へ感動をお届けしています。



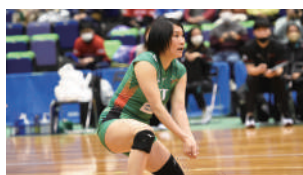
日本屈指のバレーボールチームとして「最大の感動を。」皆様に

JTのバレーボールチーム「JTサンダース広島(男子)」は1931年に、「JTマーヴェラス(女子)」は1956年に創部された伝統と誇りを兼ね備えた日本屈指のチームです。

「JTサンダース広島」は、2018年の「平成30年度天皇杯・皇后杯」で優勝。「JTマーヴェラス」も2020年の「2019-20Vリーグ」、「令和2年度天皇杯・皇后杯」、2021年の「2020-21Vリーグ」で優勝と、男女ともに輝かしい実績を上げています。



JTサンダース広島(男子)



JTマーヴェラス(女子)

将棋を通じて ひとりひとりの限りない可能性を応援

「将棋日本シリーズ」は全国11都市で開催しています。「JTプロ公式戦」は、1981年に始まり、今年で44回を迎える伝統ある棋戦です。前年度JT杯覇者、タイトルホルダーおよび賞金ランキング上位のトップ棋士12名による公開対局をお届けしています。

また、同日同会場で行われる「テーブルマークこども大会」には、小学生以下なら誰でも参加することができます。



2022年度JTプロ公式戦

最高峰のスポーツイベントを サポート

男子ゴルフツアーのメジャー最終戦「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は、半世紀を超える歴史と伝統を持ち、今年で60回目を迎えます。

賞金王争いにも注目が集まる国内最高峰の大会として、これまで数々の名勝負が生まれてきました。今年も厳しい出場条件をクリアした30名のトッププレーヤーたちが、王者の中の王者を決めるべく、白熱した戦いを繰り広げます。



第59回ゴルフ日本シリーズJTカップ

さまざまな視点から 地域活性化を考える

Rethinkフォーラムは「新しい明日をともに創り上げていきたい」という全国各地の皆様とRethink PROJECTの考えが一つになって開催する、地域に根差したイベントです。

毎年全国の各会場で、さまざまな方面で活躍されている方々を講師に招き、講演会とパネルディスカッションを開催しています。



Rethinkフォーラム会場の様子

人財マネジメント

Human Resources Management

多様な人財が能力を最大限に発揮できる
組織づくりを進めています

JTグループは、「人財の多様性=競争力の源泉」という認識のもと、誰もが生き生きと働くことができる組織風土の醸成のため、多様化（ダイバーシティ）の推進に取り組んでいます。また、多様な従業員の自律的な成長意欲に応えるべく、OJT（On-the-Job Training）を基本として、研修、eラーニングなど、さまざまな成長支援を提供しています。



多様化推進 Diversity and Inclusion

多様性の受容と尊重を推進する 取り組み

JTグループでは、性別、性自認、性的指向や年齢、国籍だけではなく、経験・専門性といった異なる背景や価値観などを尊重し、違いに価値を見出すことが、JTグループの持続的成長につながると考えています。このような取り組みは、対外的にも「新・ダイバー経営企業100選^{※1}」や「なでしこ銘柄」「PRIDE指標^{※2}」などで評価されています。

※1「新・ダイバーシティ経営企業100選」の事業は2020年度に終了
※2 PRIDE指標:LGBTQ+に関する企業などの取り組みの評価指標

JTグループの
多様化推進ロゴを策定しました



ワーク・ライフ・バランスの尊重

社員それぞれが考えるワーク・ライフ・バランスを実現することは、視野や経験を広げるチャンスでもあり、より一層の能力の発揮につながると考えています。

そのため、多様な働き方を支える制度を整えるとともに、働き方に対する意識の変革を促す機会を設けるなど、多様な働き方を受容する組織風土の醸成に努めています。



成長支援 Human Resources Development

社員と会社の成長を結びつける マネジメントサイクル

JTの人事制度は、「社員と会社は、『仕事』を通じて貢献/処遇し、ともに『成長』する」を基本コンセプトとして設計しています。具体的には、職務（仕事）の大きさの違いや専門性を重視した給与制度の設定、社員の仕事への貢献の度合いに対する公正な処遇、社員の自律的な成長意欲を支援するための場の提供などを行っています。

人財マネジメントポリシー

- ▶ 従業員を尊重し、公正な処遇を行います
- ▶ 透明性の高いルール/基準を策定します
- ▶ すべてのJTグループ従業員に成長の機会を提供します

「世界で活躍できる人財」 育成への取り組み

JT/JTI Talent Partnership Program

世界で活躍できる人財の輩出を目的に、海外での業務経験やJTとJTIメンバーによる合同研修を展開しています。

JT-Next Leaders Program

未来のJTグループを牽引するグローバルリーダーの継続的な輩出を目的に、国内外における多様な業務に挑戦する場を設けています。



コンプライアンス

Compliance

高い倫理観を持って
事業を運営しています

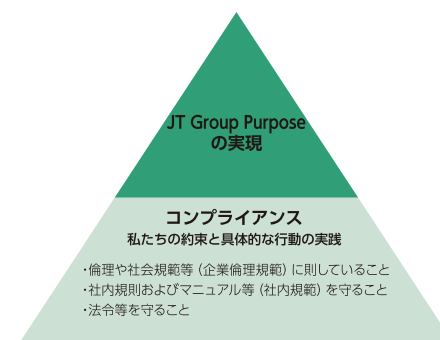
JTグループでは、コンプライアンスの実践を経営の重要な課題と位置付け、高い倫理観を持った事業運営に努めています。すべての従業員に対し行動規範を周知、徹底するとともに、コンプライアンス意識醸成のための研修啓発、相談・通報制度の整備など、コンプライアンスの推進に取り組んでいます。



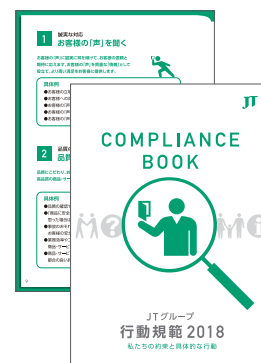
JTグループ行動規範の遵守を徹底

JTグループでは、コンプライアンスを「JT Group Purpose を共有し、より良き企業人、より良き社会人であるために求められる価値観・倫理観に基づいた行動の実践」と定義し、グループとしての共通の価値観・倫理観をまとめた「JTグループ行動規範」を全従業員に配布しています。

また、「JTグループ行動規範」に違反する行為などに関する問題を適切かつ迅速に解決・改善するために、社内と社外に相談・通報窓口を設置し、運用しています。



コンプライアンスの位置付け



JTグループ行動規範2018

研修・啓発を実施し、コンプライアンス意識を醸成

コンプライアンス意識の醸成や実践を促進するために、階層別のコンプライアンス研修に加え、ケーススタディーを用いた研修・eラーニングや動画を活用した研修も行っています。このほか、コンプライアンス活動上で役立つ知識や情報をイントラネットやグループを通じて発信するなど、さまざまな啓発を実施しています。

また、毎年6月をコンプライアンス強調月間と定めて、コンプライアンスセミナーや職場ミーティングを実施し、コンプライアンスの理解、啓発を図っています。



会社概要

Corporate Data

■ 本 社 〒105-6927
 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
 電話：03-6636-2914（代表）
 URL：https://www.jti.co.jp/

■ 設 立 1985年4月1日
■ 資 本 金 1,000億円

(2023年4月1日現在)

■ 国内支社 北海道支社
 宮城支社
 東京支社
 愛知支社
 大阪支社
 広島支社
 香川支社
 福岡支社
 その他39支社

■ 国内工場 北関東工場
 東海工場
 関西工場
 友部工場

■ 国内研究所 たばこ中央研究所
 葉たばこ研究所
 医薬総合研究所

(2022年12月31日現在)

■ 主な連結子会社 TSネットワーク(株)
 ジェイティ物流(株)
 日本フィルター工業(株)
 JT International S.A.
 Gallaher Ltd.

鳥居薬品(株)
 テーブルマーク(株)
 富士食品工業(株)
 計223社

(2023年3月24日現在)

■ 役 員

取締役会長	岩井 睦雄	監査役 常勤監査役	柏倉 秀亮
取締役副会長	岡本 薫明	常勤監査役	橋本 努
代表取締役社長	寺島 正道	常勤監査役	谷内 繁
代表取締役副社長	廣渡 清栄	監査役	稲田 伸夫
代表取締役副社長	中野 恵	監査役	山科 裕子
取締役	幸田 真音		
取締役	長嶋 由紀子		
取締役	木寺 昌人		
取締役	庄司 哲也		

*取締役 幸田 真音、長嶋 由紀子、木寺 昌人および庄司 哲也は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です
 *常勤監査役 谷内 繁、監査役 稲田 伸夫および山科 裕子は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です

(2022年12月31日現在)

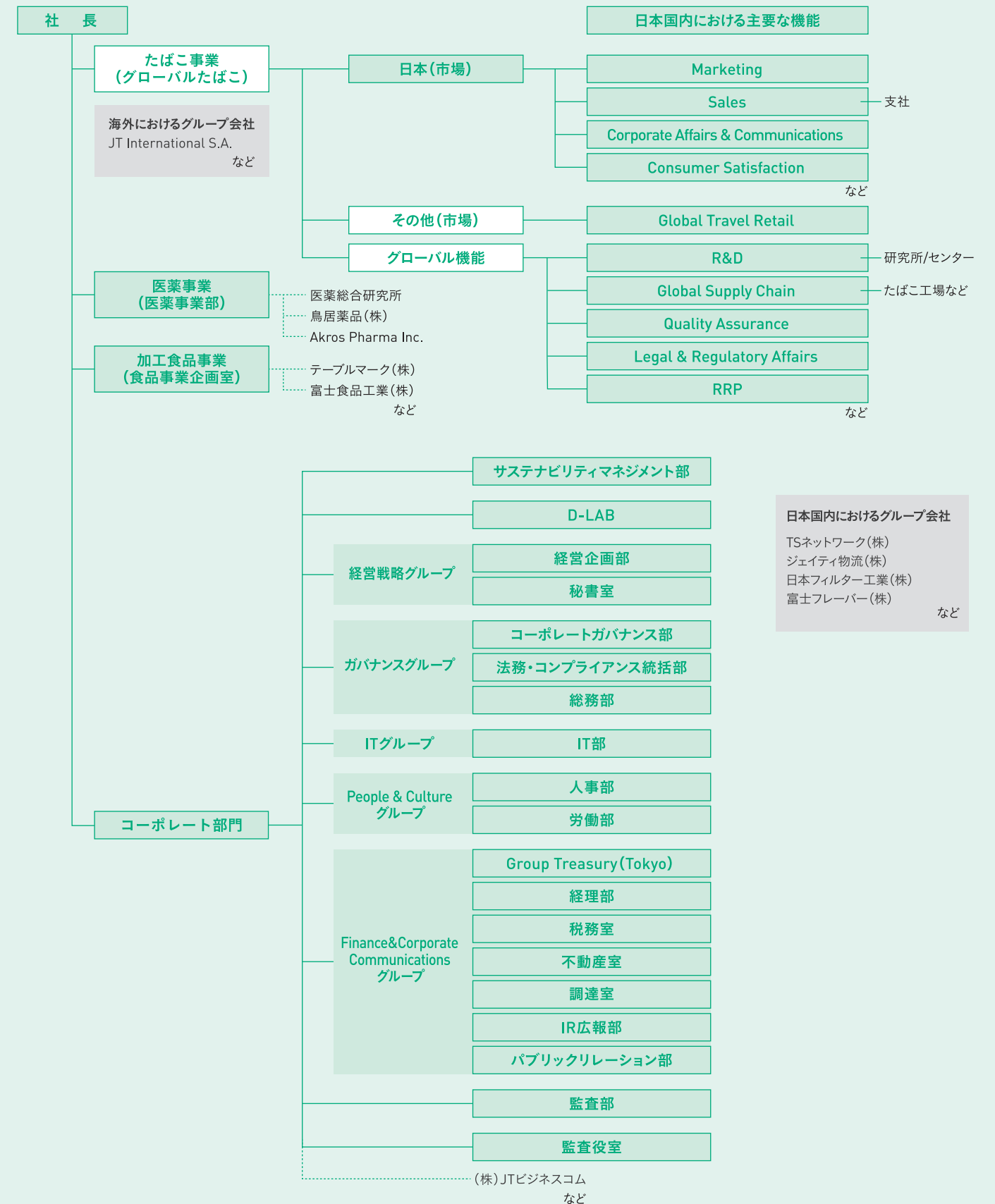
■ 従業員数 (就業人員ベース) (人)

たばこ事業	46,163
医薬事業	1,331
加工食品事業	4,297
その他事業/全社共通業務	849
従業員数(連結)計	52,640
従業員数(単体)	5,819

JTグループ組織図

JT Group Organization Chart

(2023年4月1日現在)



日本国内におけるグループ会社
 TSネットワーク(株)
 ジェイティ物流(株)
 日本フィルター工業(株)
 富士フレーバー(株)
 など



日本たばこ産業株式会社

発行 2023年6月